

Makers!

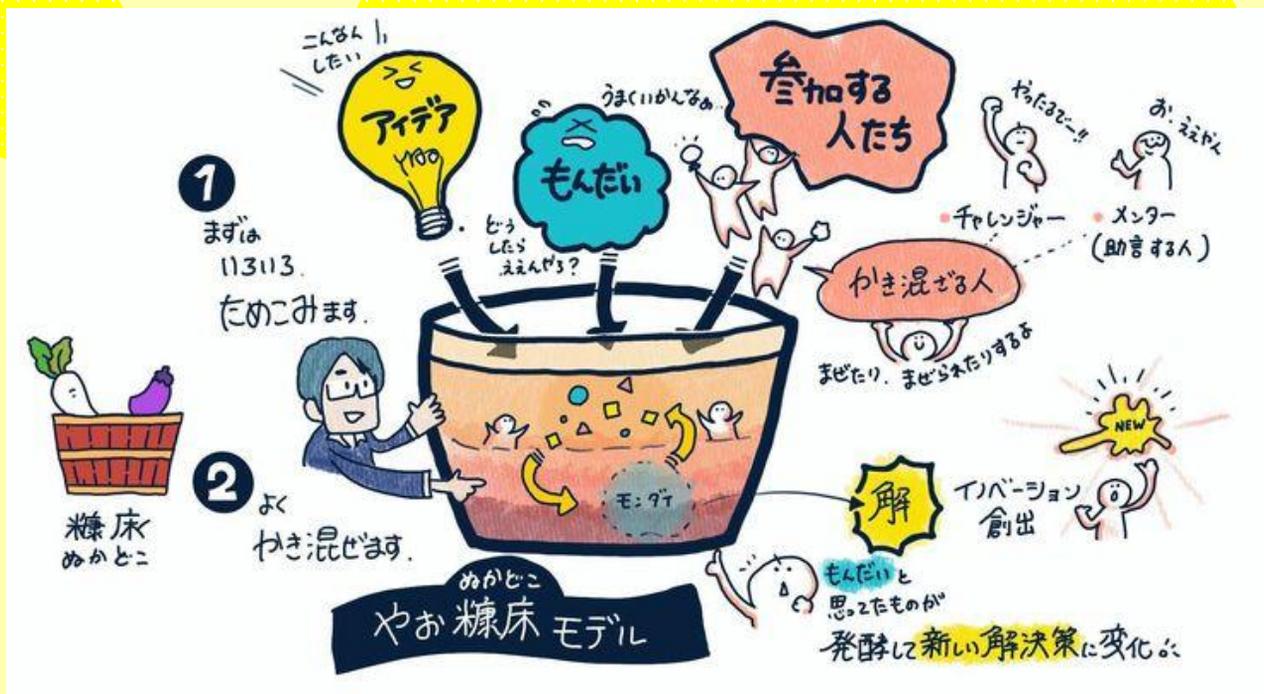
で溢れるまちに！

2020-2021年度産業振興会議提言書 概要

今期のテーマは、「ニューノーマルの時代における価値創造について」であります。今、求められる価値の創造には、単に経済や産業の側面に限られるものではなく、自然環境や地域、文化、といった側面が大きく関わっております。

今期の提言は、前回の『Be Makers 創る人になろう！』を承けたものであり、まちが Makers であふれると、市民一人ひとりが想い描く「ありたい将来の生活」に近づくものと結論づけました。今回、「やお糠床モデル」というあまり例をみない考え方を提唱するのも、八尾にかかわる人々が、いきいきと活動し、それぞれの生活を織りなす中で、産業振興を実践していくためです。

価値創造のためのレシピ



【やお糠床モデルとは・・・】

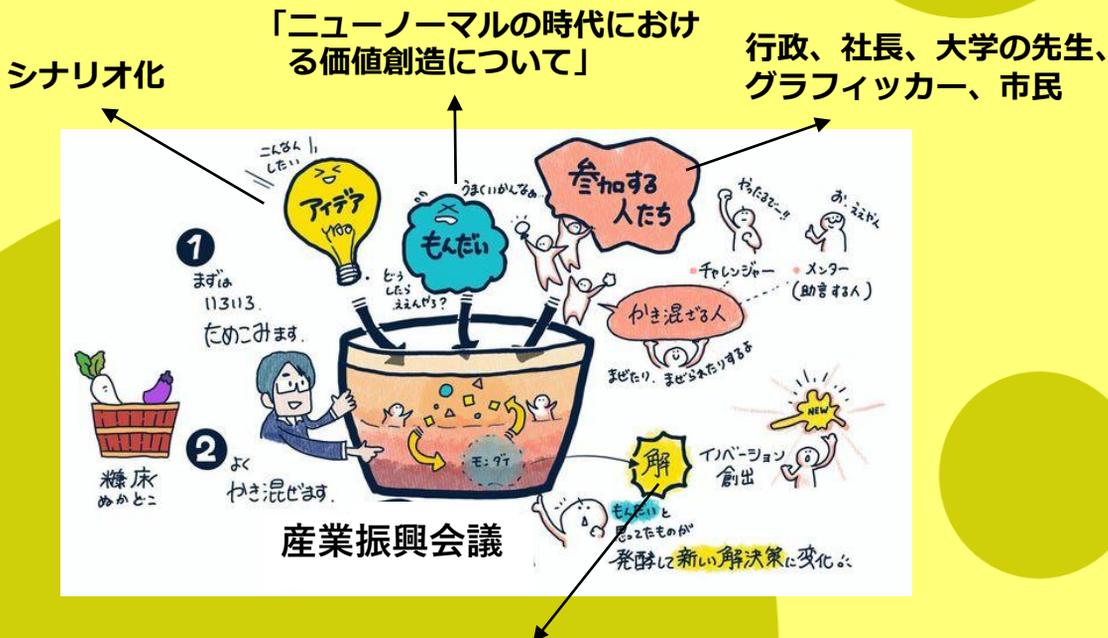
糠をはじめとして、さまざまな要素からなる「床」があり、そこに、いろんな野菜（問題やアイデアや参加者）が付け込まれ、発酵を経ておいしくなります。参加者は、八尾に関わる人たちであります。すぐに解決できない問題や、不要だと思われていたアイデアは一旦漬け込み、発酵されるのを待ちます。かき混ぜり発酵が進み、「新しい発想＝解」が生まれると、また新しい問題やアイデアが生まれ、それを再び糠床に入ると、同じ循環を繰り返します。「やお糠床モデル」には、「新しい発想＝解」を生み出し続ける仕組みとして、期待されております。

【かき混ぜる】

「かき混ぜる」は、辞書に記載はなく、我々、産業振興会議で定義した言葉になります。ある時は、自分自身も糠床モデルでかき混「ぜ」れ、ある時は、糠床モデルの中で人と人をかき混「ぜ」る。自分たちの経験値を惜しみなく共有するメンターであり、常にmakeするチャレンジャーでもあります。他者に教え、また、自分たちも教えられる主客一体な存在であります。

この産業振興会議、自体がやお糠床モデル

産業振興会議のメンバーは、行政、社長、大学の先生、グラフィッカー、市民など八尾市に関わる人たちであります。2年間、「ニューノーマルの時代における価値創造について」という問いに対して、産業振興会議に「やお糠床モデル」をインストールし、多様な意見や考え方をもとに議論してきました。そして、「ありたい未来の姿をシナリオにする」というアイデアを活かして、3つの提言という解を導き出しました。



【提言】

① コミュニティ参加への支援

人と人のつながりにより地域の産業振興は支えられている。コミュニティ参加におけるメリットを「見える化」する。

② 働くことの楽しさを伝えるためのコンテンツ制作

地域で、八尾全体で、事業者とともに、子どもたちに働くことの意義、楽しさを伝える。

③ 挑戦する人を育てるための情報発信

「挑戦することがかっこいい。」こんな風土が八尾にはあるということをひとりひとりが情報発信する。

八尾市産業政策課

Department of Industrial Policy, Yao City

電話: 072-924-3845

FAX: 072-924-0180

Email: sangyou@city.yao.osaka.jp

提言書の詳細はこちら→



発行 令和4年2月 (刊行物番号 R3-181)